

(資料5)

平成16年度 第2回性教育実施に向けて(案)

1月13日 職員会

- 1 実施日 平成17年1月19日(水)
 1校時 2組 2校時 2年
 3校時 3年 4校時 1年
 5校時(4~6年) カフェテリア方式

2 当日までの予定

- 1月12日(水) ほけんだより発行
 1月13日(木) 職朝提案
 1月13日(木)~17日(月) 指導案作成
 1~3年, 2組→江崙 カフェ→担当者
 1月13日(木)~18日(火) 資料準備
 1月17日(月)・18日(火) 4~6年児童事前アンケート実施
 及びグループメンバーと場所の発表
 1月20日(木)・21日(金) 4~6年児童事後アンケート実施

3 当日の役割分担(敬称略)

学年及びG	担当者	場所	記録	学年及びG	担当者	場所	記録
1年	深尾	1年教室	江崙	女の子	江崙	保健室	ビデオ②
2年	佐土原	2年教室	江崙	親	稲垣	6年教室	ビデオ③
3年	山川	3年教室	江崙	結婚	花谷	4年教室	録音
2組	原	2組教室	原	スポーツ	田中	ランチルーム	録音
いのち	加藤	児童会室	ビデオ①	男女交際	宮元	おはなしの森	録音
男の子	木村	5年教室	録音				

- *ビデオ①②の設置—宮元
- *ビデオ③の設置—稲垣
- *録音の準備—江崙
- *全学年の写真(デジカメ)—江崙・入江

4 当日の保護者以外の参観者(予定, カフェテリア方式のみ)

- ・福岡県立大学看護学部 地域国際看護学部教授 松浦賢長先生(性教育学者)
- ・京都市小学校下京支部養護教諭, 保健主事 若干名(1回目は3名)

5 当日のタイムスケジュール

- *1~3年生の性教育は午前中に実施する。
- *清掃等は通常通りとする。
- *1:35~1:40 4~6年児童及び指導者の移動(児童は筆記具持参)
- *1:40~2:25 性教育(4~6年—学級活動)
- *2:30~3:30 事後研究会→保健室(参観者・江崙)

小学校におけるカフェテリア方式による性教育実践の評価に関する研究 ～実施前後の児童アンケート調査より～

江崎 和子 京都市立崇仁小学校
松浦 賢長 福岡県立大学看護学部地域国際看護学

今回、カフェテリア方式による性教育を4～6年生児童を対象に行った。2回の授業実施後の児童アンケートより以下のことがわり、次回への課題も示唆された。

1. 児童や保護者が学びたいテーマを選択することは心身の性に関する個人差（興味・関心も含める）を尊重することになり、児童の学習意欲や取り組む姿勢を高めることがわかった。
2. カフェテリア方式の主目的「性行動を低リスクに導く」と達成の評価は1年度の実践ではできにくいことがわかった。さらに目的の細分化（短期、中期、長期）と教師側の共通理解やスキルアップが課題であることが示唆された。
3. カフェテリア方式で「性に関するネットワークづくりとして、将来子どもたちが相談できるリソース（資源）やラインを増やす」ことは1年度の実践ではできにくいことがわかった。しかし、教師へのラインは若干増えたことがわかり、個別指導・継続指導への布石となり得ることも示唆された。

I. 研究の目的

2004年5月、文部科学省によって、学校における性教育はクラス単位の集団教育を重視する時代から、個別指導を重視する時代となっていく方向性が示された。しかし、現在の学校現場では、個別指導に対応する資源は乏しく、本校では、その中間形態であるカフェテリア方式による性教育の実践を試みた。実践に先立ち、その目的を下記のように設定し、実施前後の児童へのアンケートにより、目的が達成できたかどうか検討したので報告する。

- ①心身の発育による性に関する個人差（興味・関心も含める）を尊重する。
- ②教師も自分が得意とする「性教育に関連する分野」により、その根底にあるメッセージを伝える。それは生命の大切さ、二次性徴、心の変化といったような従来の主題のように端的に表されるメッセージでなく、教師も“性を切り離せない”人間として子どもたちに伝えたいもの、といったような本質的な奥深い何かが伝わればよい。
- ③性に関するネットワークづくりとして、将来子どもたちが相談できるリソース（資源）やライン、雰囲気を増やし、高める。また、個別指導・継続指導への布石となるようにする。

II. 研究の方法

1. 対象

京都市立崇仁小学校4～6年 29名
(女子15名 男子14名)

2. 方法

この実践モデルを開発した共同研究者の松浦にアドバイザーを依頼した。

カフェテリア方式による第1回性教育を1月27日に、第2回性教育を1月19日に実施した。いずれも実施日の前後2日以内に各学年の教室でアンケートを自記式質問紙票により実施した。調査票は記名とした。

なお、第1回性教育は児童が自分で選んだテーマで学習する、第2回性教育は保護者が選んだテーマで学習するという設定である。

3. 調査内容

児童への質問項目は下記の通りである。

(1) 第1回性教育前

- ①このテーマを第一希望にしたわけを教えてください。
- ②自分が選んだテーマでどんなことを知っていますか？知っていることを書いてください。
- ③あなたは自分のからだやことを大切にするためにどんなことをしたらいいと思いますか？
- ④あなたは人の（友だちや家族など）

からだやこころを大切にするために
 どんなことをしたらいいと思います
 か？

- ⑤あなたがからだやこころのことで
- ②あなたは自分のからだやこころを大切に
 するためにどんなことをしたら
 いいと思いますか？
- ③あなたは人の（友だちや家族など）
 からだやこころを大切にするために
 どんなことをしたらいいと思いま
 すか？
- ④あなたがからだやこころのことでな
 ことをしたらいいと思います困っ
 たりなやんだりした時だれに相談し
 ようと思いますか？何人でも書いて
 ください。
- ⑤担当の先生はあなたに何を言いた
 かったと思いますか？

(3) 第2回性教育前

- ①このテーマでどんなことを知って
 いますか？知っていることを書いて
 ください。
- ②あなたは自分のからだやこころを大
 切にするためにどんなことをし
 たらいいと思いますか？
- ③あなたは人の（友だちや家族など）
 からだやこころを大切にするために
 どんなことをしたらいいと思いま
 すか？
- ④あなたがからだやこころのことで
 困ったりなやんだりした時だれに
 相談しようと思いますか？何人でも
 書いてください。

(4) 第2回性教育後

- ①このテーマでどんなことがわかり
 ましたか？
- ②あなたは自分のからだやこころを大
 切にするためにどんなことをし
 たらいいと思いますか？
- ③あなたは人の（友だちや家族など）
 からだやこころを大切にするために
 どんなことをしたらいいと思いま
 すか？
- ④あなたがからだやこころのことで
 困ったりなやんだりした時だれに
 相談しようと思いますか？何人でも
 書いてください。

困ったりなやんだりした時だれに相
 談しようと思いますか？何人でも書
 いてください。

- ⑤担当の先生はあなたに何を言いた
 かったと思いますか？

III. 結果と考察

目的に沿って実践の評価を検討する。

1. 「心身の発育による性に関する個人差（興
 味・関心も含める）を尊重する。」につい
 て

この目的については、カフェテリア方式
 の性教育を始めるにあたって、児童にア
 ンケートを実施したので、まず、その結
 果から検討してみる。

1回目は「学校における性教育の考え方、
 進め方—文部科学省」「学校・園における
 性教育・エイズ教育指導資料」を参考に
 指導者が21のテーマを決め、児童に選
 択させた。その結果から7つのテーマに
 しぼり、再度選択させた。

児童には第一希望と第2希望を書かせた
 が、結果的に、全員第一希望のテーマの
 授業を受けた。そして、テーマ選択時の
 一言感想について分類してみた。（表1）

表1

内 容	人 数 (%)	具体的な記述
カフェテリア 方式への興 味・関心・期 待を示した児 童	19 (67.9)	たのしみ、はやく したい、おもしろ そう、知りたい等
カフェテリア 方式に対する 姿勢を示した 児童	3 (10.7)	1人になってもし んげんに聞く、 ちゃんと聞く等
第1回目の指 導を受けた時 の気持ちや理 解の様子を示 した児童	3 (10.7)	きんちょうした、 話がよくわかった 等
カフェテリア 方式に対する 不安や	1 (3.6)	1人やったらどう しようと思った
その他（無記 入、選んだ理 由）	2 (7.1)	○と○がわからな かったからえら んだ

これは、児童の性に対する興味関心の個人差を尊重した結果、多くの児童（22名－78.6%）が、学習に対して意欲的に取り組む姿勢を示したといえるのではないかと考える。

また、1回目の指導は4年～6年の児童が集まり、担任や学年担の見守る中、養護教諭が話すという設定だった。指導者の方の緊張感も伝わり、真剣に聞いていた児童が多かった。

2. 「教師も自分が得意とする「性教育に関連する分野」により、その根底にあるメッセージを伝える。それは生命の大切さ、二次性徴、心の変化といったような従来の主題のように端的に表されるメッセージでなく、教師も“性を切り離せない”人間として子どもたちに伝えたいもの、といったような本質的な奥深い何か¹⁾が伝わればよい。」について

この目的については長期目標に適合すると思われるので、今年度の実施だけで評価するには困難であるが、児童のアンケートよりその一端を考察してみる。

指導後のアンケートの中に「担当の先生は何を言いたかったと思うか？」という質問を設定

した。このような「他者との関係における、しかも抽象的な概念」をイメージできるのは中学年では難しいし、高学年でも個人差があると思われる。

1回目と2回目の結果は表2の通りである。

（「スポーツ」の考察については今回省略した。）

これをみると、どの児童も、指導者の伝えたかったことは受け止めていると思われる。

下線の部分は抽象的な記述と考える。

他の記述については概ね具体的な記述で、知識として理解されていることが伺える。

下線の抽象的な記述により、「奥深い抽象的な概念」を捕らえている児童もいると思われるが、これが目的にある、「教師も“性を切り離せない”人間として子どもたちに伝えたいもの、といったような本質的な奥深い何か」が伝わったかどうかはもう少し検討する必要があると思われる。

テーマ設定についても、今後はこの目的をより達成しやすいテーマ設定が必要と思われる。

例えば「いのちのふしぎ？」の「いのち」の概念は非常に大きく、「科学的な生命現象」ではとらえきれないものである。従って、「いのち」を子どもたちにどう教えるかというような性教育以前の議論なしには担当者自身が「本質的な奥深い何か」として、何を伝えたいのかわからないと考える。

また、「男子の成長」「女子の成長」にしても「成長」や「心身の変化」を通してどのような人格や人間性を育てていくのかといったような議論が必要になってくるであろう。

もしかしたら、このような「教師も“性を切り離せない”人間として子どもたちに伝えたいもの、といったような本質的な奥深い何か」といったものは性教育という分野でのみ伝わるものではないかも知れないと考える。

このような議論を通して、担当者がそれぞれ『教師も自分が得意とする「性教育に関連する分野」により、その根底にあるメッセージ』とは何かについて深めておくことが大切である。

3. 「性に関するネットワークづくりとして、将来子どもたちが相談できるリソース（資源）やライン、雰囲気を増やし、高める。また、個別指導・継続指導への布石となるようにする。」について

この目的については、1回目と2回目それぞれの指導前後に「あなたが体や心のことで困ったりなやんだりした時だれに相談しようと思いますか？何人でも書いてください。」という質問を設定した。その結果は表3の通りである。

指導後の記入時には指導前の記入用紙は見せないで書かせたものである。

指導後に増えている児童もいれば減っている児童もいるし、複数の人数が予想される名称もあるので人数の変動で見ていくのには今回無理があると思われる。

また、教師（含 養護教諭）のラインがどうかと見た場合も、「先生」と記入した児童は、1回目の指導前には7名（25.0%）、指導後には11名（37.9%）で2回目の指導前には11

名（39.3%）、指導後には11名（40.7%）であった。今回の指導だけで「将来子どもたちが相談できるリソース（資源）やライン、性に関するネットワーク」を増やすということは困難であることもわかった。従って、今回だけで目的が達成できたとは言えず、長期的に見ていくことが大切と考える。

ただ、担当者側からみて個別あるいはグループで自分が関わった児童へは親近感を覚え、そのことが日頃の関わりに良好な関係として発展していくことは大いに考えられる。

また、表から読み取れる個別性は今後の個別指導に役立てることができる。従って、「雰囲気を増やし、高める。また、個別指導・継続指導への布石となるようにする。」という点では目的は達成できたと思われる。

6年生の男子3名が「自分で解決する」と記入しているのは明らかに「自立」「反抗」のサインで同時に存在する「依存や甘え」のサインとともに、「性に関わること」に限らず、否定せず見守ることが大切だと考える。

IV. まとめ

今回、カフェテリア方式による性教育の目的を3項目設定し実践した。実践後の児童アンケートより以下のことがわかった。

1. 児童や保護者が学びたいテーマを選択することは、そのこと自体、心身の性に関する個人差（興味・関心も含める）を尊重していることと言えるし、それにより、児童の学習意欲や取り組む姿勢を高めることがわかった。
2. 「教師も自分が得意とする「性教育に関連する分野」により、その根底にあるメッセージを伝える。それは生命の大切さ、二次性徴、心の変化といったような従来の主題のように端的に表されるメッセージでなく、教師も“性を切り離せない”人間として子どもたちに伝えたいもの、といったような本質的な奥深い何かを伝えればよい。」という目的は言い換えると「性の敷居を高くする」「性行動を低リスクに導く」ということで、カフェテリア方式の主目的である。今回の試験的な実践により、今年度だけの指導では目的達成の評価はできにくいことがわかった。従って、短期目標、中期目標、長期目標の

設定と共に目標達成の判断基準を明確にしておく必要がある。

また、この目標設定に関しては指導者側の共通理解が必要であることもわかった。

今回一度の研修会を行ったが、もっと深い議論（グループワークなどにより）により指導目的の共通理解とスキルアップが必要である。

3. 子どもたちは心身の健康に関する問題については多くのラインを持っていることがわかった。特に教師というラインは25%~40%の児童が持っており、今回の指導で若干増えたことがわかった。

また、多くの教師が少人数で関わることは個別指導、継続指導への布石となりえることがわかった。

しかし、思春期に入る男子については自立心が優先し一人で解決するとい思いを強く持っている。今後は中学との連携が必要であると考える。

V. 参考文献

1. 「学校における性教育の考え方、進め方」

平成11年3月31日発行 文部省

2. 松浦賢長：新しい時代の性教育を考える～思春期の性問題に対する現行学校性教育の限界～日本性教育協会（JASE）研究月報、2004年5月

3. 松浦賢長、江崙和子：性教育に関する集団指導と個別指導の中間的指導「カフェテリア方式」の開発、第51回日本学校保健学会講演集、2004年11月

表2

(1回目の児童と2回目の児童は別の児童, → 1人の児童の記入)

	1回目実施後	2回目実施後
いのちのふしぎ?	<p>4年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無記入 <p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いのちは大切なんだ!らんしと精子がくっつくと赤ちゃんになるんだ! ・命の大切さ ・体の作りは<u>すごい</u>。体はいがいと強い。 	<p>4年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いのちはたいせつだと。 ・わからない ・命を大切にしてください!ということをお願いしたかったと思います。 ・命をたいせつにする。 ・いのちです。 <p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無記入 ・「命は大事」という事。 ・自分や人の命を大切にしなければいけない。 ・人や体や自分の体を大切に。 <p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人うまれることはきちょうということ。 ・いのちは一つしかないから大事にしてほしいということ。 ・自分の命は大切だからしっかり命をまもってほしいことだと思った。
男の子ってこんなふうになるよ。	<p>4年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりません。 ・無記入 <p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すてきな大人になってほしい。 ・すてきな大人は仕事でお金をかせいだりする。 <p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人になって悪い道を進まず良い道を進んでほしい。 ・自分の体を大切にしろということだと思う。 ・りっぱな大人になってほしい。 	<p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人になるまでいろいろなことが起こるから、そういうところをきちんと知ってほしい。
	<p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりません。 ・からだ なんておとなになったらどんどん大きくなるか。 	<p>4年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女の子の体にはえいようやえいようぶんがあること。 ・せいはなんのこたかを聞いたかったと思います。 <p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・げっけいの大切さ。 ・あせらなくてもみんななるからだいじょうぶ。 ・月けいになったときのしよりのしかた。 <p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体のこと分かってほしいと言いたかったと思います。
親になるってど	<p>4年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりません。 ・無記入 	<p>4年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おやはたいへん。子どものことを考えてく

んなこと？	5年 ・親っていうのは子どもをそだてなければならぬ苦労がある。 ・親になってみるといいこともあるし <u>苦労することもあるということ。</u> ・おやのよろこびとくろう。	れている。 6年 ・自分の子供を大切にする。 ・無記入 ・ <u>親はいいかげんな気持ちではなれないということ。</u>
だれかを好きになったり結婚するってどんなこと？	5年 ・結婚してよかったのか。	4年 ・「相手を大切に！でも自分も大切に！」と 言うことを言いたかったと思う。 ・ <u>けっこんするってことはむずかしい！？</u>
男女交際ってなに？	5年 ・ <u>人の心はじかんがきめるんじゃない人がきめること。</u> 6年 ・人を大事にすることや、見た目で判断しないということだと思ふ。 ・友達をいっぱいつくってほしいと言いたかったんだと思います。 ・ <u>男の子と女の子の事</u> ・まず、相手の良い所と悪い所を見つけて、相手のことをわかってゆく。それと、自分の良い所、悪い所を見つけて、自分自身もわかる。	5年 ・ <u>心をかえること。</u>
スポーツ	4年 ・オーバートレーニングにならないために→ゆっくり休む→すいみん！バランスのとれた食事。 ・バランスよくたべたりしたり？けんこうになってほしい。 ・よくすいみんをとってほしい！バランスのとれた食事をとってほしい！オーバートレーニングにならないためにはどうするか！ ・バランスのいい食事、すいみんなどをしてすききらいをなくしていい体になってほしいことをつたえたかったと思います。 6年 ・自分の体や心をたいせつにしてほしいと思っていたと思う。	4年 ・スポーツでは体をやわらかくする。 5年 ・自分ののがてなところや得意なところがしているかどうかということ。

表 3

児童名	第1回カフェテリア		第2回カフェテリア	
	指導前	指導後	指導前	指導後
4年好 ○○	えざき先生、おかあさん、おとうさん、おねえちゃん、上田さん	家族、えざき先生、上田さん	えざき先生、おとうさん、おねえちゃん、かとうせんせい、おかあさん	えざき先生、かぞく、ともだち
○○	友だち、お母さん、えざき先生	友だち、おかあさん、えざき先生	お母さん、えざき先生、友だち、先生(たんにんの)	友だち、先生、おや

〇〇	おかあさん、おとうさん、おばあちゃん、友だち	友だち、かぞく、先生	お母さん、お父さん、先生	お母さん、先生	
〇〇	えざき先生	えざき先生	えざき先生	えざき先生	
〇〇	家族	家族	えざき先生、家族	えざき先生、家族	
〇〇	家族、しんゆう、ともだち	おかあさん、おじいちゃん、おばあちゃん、友だち、先生、大人、ともだち(している人)	ママ、しんゆう、ママのかれし、いながき先生、はなたに先生	ママ	
〇〇	おいしゃさん、おうちのの人、しんせきの人、友だち	おかあさん、おとうさん、きんじよの人、おばあちゃん、おじいちゃん	おうちの人、きんじよの人、おいしゃさんの人	おいしゃさん、かんごしさん、ほけんしつのでせんせい	
4年 〇〇	おかあさん、おじいちゃん、おばあちゃん	おかあさん、おじいちゃん、おばあちゃん	家族	家族	
〇〇	おや	おや	おや	おや	
〇〇	えざき先生	ママ、先生	先生	先生	
〇〇	からだのことにくわしい人、学校の先生	けんこうのことをよく知っている先生、友だち、かぞく	学校の先生、家族	学校の先生、家族	
5年 〇〇	女の人(おかあさんなど)	かぞく、おいしゃさん	お母さん	えざき先生、お母さん	
〇〇	お姉ちゃん	お姉ちゃん	お姉ちゃん	おねいちゃんとか	
〇〇	家の人(かぞく)、ほけんの先生	家の人、ほけんの先生	自分にかかわりがある人、先生(ほけん、女の先生)	女の人	
〇〇	(欠席)	おかあさん、おねえちゃん、おにいちゃん	はらせんせい、おかあさん	(欠席)	
5年 〇〇	かぞく(4人)	2人	2人	2人	
〇〇	2人(ありもとあいま、おかむらこうき)	おかむらこうき	こうきくん	こうきくん	
〇〇	友だち	友だち、先生、かぞく	先生、友だち	友だち、先生、家族	
〇〇	家族、医者	家族、医者	家族、医者など	家族、医者など	
〇〇	家族3人、いとこ3人、おじいちゃん2人、おばあちゃん1人、友だち(こうきくん)	友だち、かぞく、先生、いとこ	家族(4人)	家族(4人)	
〇〇	友達	友達、先生	友達	友達	
6年 〇〇	お母さん	お母さん	(欠席)	(欠席)	
〇〇	お母さん、友達(6年の女の子)	お母さん	お母さん	お母さん	
〇〇	家の人(お母さん)、親友	親、親友	親(お母さん)	お母さん	
〇〇		お母さん	お母さん	お母さん	
6年 〇〇	心はお父さん、お母さん、先生 体は病院の先生	自分でかいつする	自分で解決する	自分で解決する	
〇〇	相談しない	相談しない	相談しない	相談しない	
〇〇	お母さん、お父さん、かなやこうへいくん	お母さん、お父さん	お母さん、お父さん	お母さん、お父さん	
〇〇	だれにも相談しない。 自分で解決する。	自分で解決する。	自分で解決する	自分で解決する	

小学校におけるカフェテリア方式による性教育実践に伴う地域連携に関する研究 ～主に保護者との連携、中学校との連携より～

江崎 和子 京都市立崇仁小学校
松浦 賢長 福岡県立大学看護学部地域国際看護学

最近モデル開発された、性行動を低リスクに導くことを主目的とするカフェテリア方式による性教育に注目し試験的に実践適用した。その際、性教育の基本方針である「保護者や地域の理解が得られる」ことに着目し、地域連携の在り方について検討してみた。

1. 新しい性教育の実施を可能にした要因として、日頃の地域との連携が不可欠であることが示唆された。
2. 新しい性教育を導入するにあたって、従来から性教育を参観日に実施し、保護者に公開していたことが有益であった。
3. 新しい性教育を導入するにあたって、保護者の了解を得ながら進めることが不可欠であることが示唆された。
4. 新しい性教育を導入するにあたって、中学校教師に指導者として担当してもらうことが可能であることがわかった。

I. 研究の目的

文部科学省は性教育について「児童・生徒が健全な異性観を持ち、望ましい行動がとれる」ことを目標に掲げ、①子どもの発達・発育段階や受容能力に応じている②教育的に価値がある③保護者や地域の理解が得られるなどを基本方針としている。また、2004年5月には学校における性教育はクラス単位の集団教育を重視する時代から、個別指導を重視する時代となっていく方向性が示された。

このような中で、最近モデル開発された、性行動を低リスクに導くことを主目的とする、カフェテリア方式による性教育に注目し、試験的に実践適用し、それに伴う地域連携の在り方について検討した。

II. 研究の方法

1. 対象

京都市立崇仁小学校4～6年 29名
(女子15名 男子14名)

2. 方法

この実践モデルを開発した共同研究者の松浦にアドバイザーを依頼した。

カフェテリア方式による第1回性教育を12月7日に、第2回性教育を1月19日に実施した。

なお、第1回性教育は児童が自分で選んだテーマで学習する、第2回性教育は保護者が選んだテーマで学習するという設定である。実施を可能にした要因として日頃の地域との連携について、実施に伴っては主に保護者、中学校との連携の在り方について検討してみた。

III. 研究内容

1. 地域との連携（従来）

(1) 地域諸団体と本校との連携

同校学区には多くの各種団体があり、子どもが参加できる行事の実施や学習面の支えなど行っている。

- ① 自治連合会
- ② 市政交対協委員会
- ③ 民生児童委員協議会
- ④ 少年補導委員会
- ⑤ 保健連絡協議会
- ⑥ 育成会
- ⑦ 崇仁小PTA
- ⑧ 皆山中PTA

- ⑨ 消防分団
- ⑩ 社会福祉協議会
- ⑪ 共同募金会
- ⑫ 文化会
- ⑬ 日赤奉仕団
- ⑭ 遺族会
- ⑮ 体育振興会
- ⑯ 公園愛護協力会
- ⑰ 女性会
- ⑱ 住宅推進委員会
- ⑲ 浴場委員会
- ⑳ 崇仁小学校
- 21 皆山中学校
- 22 児童館運営委員会
- 23 献血推進委員会
- 24 シルバークラブ
- 25 教育連絡会
- 26 防犯推進委員会
- 27 自主防災会
- 28 子供神輿実行委員会
- 29 ピオトープ実行委員会
- 30 NPO崇仁まちづくりの会
- 31 崇仁小学校ピラーバズ
(保護者が自主的に運営している体
カづくりの会)

2. カフェテリア方式による性教育実施に伴 う保護者との連携

本来なら、4月の家庭訪問時にそれぞれの家庭に説明し、了承を得るべきであるが、校内で共通理解を得られたのが6月だったので今年度は保健日より12月の個人懇談会で連携をはかった。

(1) 保健日より

本校では従来から毎月1回保健日よりを発行している。内容は月別の保健目標について、学級での指導資料とするものである。従って1～3年用と4～6年用の2種類を発行している。

また、必要により紙面の一部を「保護者様」とし、児童が家庭に持ち帰り、保護者に渡すように指導している。

今回の性教育についての保護者宛の文面は次の通りである。

① 10月の保健日より(1～6年)

保護者様

日頃は本校の健康教育に何かとご支援いただき、ありがとうございます。

本校では健康教育をあらゆる教育活動の基盤と考え、実施しています。特に性教育に関しては、性に対する正しい判断力を培い、健全な態度を養うと共に男女相互の敬愛にもとづく好ましい人間関係や自他の人権としての性を尊重する意識や態度を育てることを目標に発達段階に応じた指導を実施し、毎年1月の参観日には保護者、地域の皆様にも公開してまいりました。

近年、子どもたちを取り巻く性情報の氾濫、性に関する意識や価値観の多様化など性教育の課題も益々、複雑かつ重要になってきていると思われまます。

従って、今年度も本校では性教育を重点的に実施いたします(12月と1月)が4～6年生につきましては、従来の学級で行うのではなく、学年枠をはずしたグループでの学習と考えています。(1～3年生につきましては従来どおり学級で行います。)具体的には児童の希望や保護者の皆様のお考えなどを考慮し指導するテーマを設定し、グループごとに4～6年の担任、学年担当、養護教諭などが指導にあたる予定です。

くわしくはその都度、学年日より、ほけん日よりなどでお知らせいたしますので、上記のような性教育の実施につきましてご了承いただきますようお願いいたします。

なお、お尋ねになりたいことがありましたら遠慮なく学校までご連絡ください。
② 11月の保健日より(4～6年)
保護者の皆様へ性教育について

日頃は本校の健康教育に何かとご支援いただき、ありがとうございます。

10月のほけん日よりでもお知らせいたしました12月と1月(参観日)の性教育につきましては、児童の希望や保護者の皆様のお考えを考慮してグループごとに指導する予定です。(1～3年は従来どおり学年別です。)

つきましては、グループのテーマ設定のために、先日、児童へ右記のようなアンケートを実施しましたのでお知らせいたします。アンケート結果を参考にして6～7つのテーマを決めて、再度児童の希望をとり、グループ分けを行いたいと思います。

保護者の皆様のお考えなどは12月の

個人懇談会の折にお聞かせいただければと思いますが、お尋ねになりたいことやご意見がございましたら、いつでも遠慮なく学校までご連絡ください。

③ 12月の保健だより（4～6年）

保護者の皆様へ 性教育について

日頃は本校の健康教育に何かとご支援いただき、ありがとうございます。

11月のほけんだよりでもお知らせいたしました。12月と1月（参観日）の性教育につきましても、児童の希望や保護者の皆様のお考えを考慮して個別あるいはグループで指導を行う予定です。（1～3年は従来どおり学年別です。）

このたび、12月7日に向けて児童の一次調査をもとに、右記のように7つのテーマを設定いたしました。このテーマで児童に再度希望を取りましたところ、それぞれのテーマを1～6名の児童が希望し、7日に学習することになりました。保護者の皆様のお考えなどは、個人懇談会の折にお聞かせいただければと思いますが、お尋ねになりたいことやご意見がございましたら、いつでも遠慮なく学校までご連絡ください。

④ 1月の保健だより

保護者の皆様へ 性教育について

日頃は本校の健康教育に何かとご支援、ご協力を頂き、ありがとうございます。

毎回、ほけんだよりでもお知らせしていますが、1月19日（自由参観日）の性教育につきましても、保護者の皆様のご希望のテーマでお子たちに個別あるいはグループで指導を行う予定です。（1～3年は従来どおり学年別です。）

つきましても12月の懇談会の折にご希望のテーマをお尋ねし、全員、第一希望のテーマになりましたのでお知らせいたします。テーマと担当者は右記の通りです。

なお、お尋ねになりたいことやご意見がございましたら、いつでも遠慮なく学校までご連絡ください。

なお、ほけんだよりについては地域の児童館にも掲示したいと要請があり、掲示してもらっている。

(2) 保護者個人懇談会

12月20日（月）、21日（火）に保護者懇談会を各クラスで行っている。

内容は主に成績懇談であるが、今回の性教育についても担任から説明し、アンケートに記入してもらった。アンケート内容は下記の通りである。

- ① 1回目の学習テーマ確認、
- ② 保護者の希望（第一希望、第二希望）
- ③ 他に学習してほしいテーマ
- ④ カフェテリア方式による性教育に対する意見、感想、希望

カフェテリア方式による性教育に対する意見や感想、希望は下記の通りである。

- ① これからも引き続き行ってください。
- ② 個人のレベルに合った学習方法なので、無理がなくて良いとおもいます。今後ともよろしくお祈りします。
- ③ 恋愛とか男女交際などは時期がくれば自然にわかると思うので体の変化について教えてほしい。
- ④ からだをきれいにするのはなぜ？どうしてかを説明してあげて欲しいです。（お風呂で洗いたらないようですので）本人にわかりやすくお願いします。理解力に欠けるようですので。
- ⑤ むやみな性行為で病気になったりする事とかその病気について学習してほしい。
- ⑥ 男の子の体の成長に関して親自身が（特に女親）いろいろ知りたいので、子どもに伝える前に保護者に性教育を教えてほしい。

(3) 学校保健委員会

学校保健委員会は学校、保護者、地域、学校医、学校歯科医、学校薬剤師が一同に介し学校保健に関して協議するものである。

2月28日の学校保健委員会に於いて「カフェテリア方式における性教育実践」について報告し、賛同を得られた。

3. カフェテリア方式による性教育実施に伴う中学校との連携

アドバイザーのアドバイスにより、一つのテーマを同校児童が進学する中学校の教師に担当してもらうことにした。

保健体育教師1名の派遣があり、「男女交際ってなに？」というテーマを担当してもらうことにした。養護教諭がコーディネーターになり、連携を行った。（表1）

中学生生徒から本校6年児童に情報が伝わり、6年児童の女子全員（4名）がこのテーマを希望した。

(表1)

日程	内容
8月中旬	アドバイザーより中学教師の担当についてアドバイスを受ける。

9月初旬	同校学校長より中学校長へ電話で依頼。その後、保健体育の教師派遣の承諾を受ける。
10月18日	養護教諭が中学校を訪問し、担当の教師にカフェテリア方式について説明した。
11月22日	養護教諭が中学校を訪問し、児童の希望調査結果について報告した。
11月26日	養護教諭が中学校を訪問し、学校長宛講師派遣依頼と本人宛講師派遣依頼を届けた。
12月7日	第1回カフェテリア方式による性教育実施。授業後、中学校教師もアドバイザーからアドバイスを受けた。
12月中旬	同校学校長より中学校校長へ第2回目の担当を依頼。
12月20日	養護教諭が中学校を訪問し、第1回授業記録を届けた。
12月20日	中学校教師より2回目は日程が合わず訪問できない旨の連絡があった。

4. その他の連携

(1) 保育所との連携

年1～2回地域保育所との連携を行っている。毎年3月に養護教諭を含めた2～3名の教師が保育所に出向き、5月頃には保育所が同校を訪れ、新入学児童についての連携を行っている。。

(2) 中学校との連携

年7～8回の定期連携を行っている。
また、同校と近隣の1校合わせて2校が同じ中学校へ進学するが、3校の児童間交流、教職員間交流も行っている。

(3) 児童館との連携

本校1～3年児童の一部は放課後、隣接の児童館へ行っている。児童館職員との話し合いや担任、養護教諭が時々訪問することで連携を行っている。

(4) 学習施設との連携

本校では学力保障の一環として隣接の学習施設を利用して基礎学力や体験学習の支援を行っている。学習施設所属の指導主事との連携を定期的に行っている。

5. 考察

新しい性教育実践に伴って、地域連携のあり方について下記のことが示唆された。

- (1) 新しい性教育は「環境のコントロール」を主眼にしているが、それは同校の「地域あげて子どもたちを育てる」という理念と通じるものがあり、理解が得られやすかったと思われる。
- (2) 同校における長年の地域との信頼関係がベースになり、新しい取組も学校への信頼から比較的スムーズに展開できたと思われる。
- (3) 性教育の授業については従来から（約10年前）公開しているので、保護者も“性教育”に対して違和感なく受け入れられたと思われる。
- (4) 新しい性教育について、ほけんだよりや個人懇談会など可能な限り保護者との連携を図ったことが反対意見なく導入できた要因と考えられる。
- (5) 中学教師にテーマを担当してもらうことも日頃の教職員間連携があり、賛同を得られたと思われる。

III. 参考文献

1. 「学校における性教育の考え方、進め方」平成11年3月31日発行 文部省
2. 「学校・園における性教育・エイズ教育指導資料」平成14年4月発行 京都市教育委員会
3. 松浦賢長：新しい時代の性教育を考える～思春期の性問題に対する現行学校性教育の限界～、日本性教育協会（JASE）研究月報、2004年5月
4. 松浦賢長、江寄和子：性教育に関する集団指導と個別指導の中間的指導「カフェテリア方式」の開発。第51回日本学校保健学会講演集、2004年11月

中学校における難易度別コースによる性の健康教育の実践開発に関する研究 ～実施前後の調査より～

鈴木 茜 千葉県印西市中央保健センター
松浦 賢長 福岡県立大学看護学部地域・国際看護学

地域保健の専門家である保健師には、子どもたちの健康支援者として思春期の性問題対策への関わりが求められている。今回、性・成長発達に応じた生徒の選択による難易度別コースによる性の健康教育を中学校3年生に行った。事前事後調査によって、子どもたちの性に対する意識やイメージはばらつきがあり、多様化していることがわかった。また、従来の学校性教育とは違うスタイルとして、クラスや学年の枠をはずすこと、男女別にわけること、難易度別にわけた講義を選択することについての事前調査と、実際におこなったクラスの枠をはずすこと、難易度別にわけた講義を選択することについては、事前では否定的な意識をもつ生徒が多かったが事後ではそれらが肯定的になっている生徒が多かったことがわかった。

子どもたちの性についての意識や成長発達がそれぞれ異なることから、地域保健側から学校へは、予防医学的視点での最新の情報を学校側へ提供するとともに、子どもたちの成長に合わせた小集団に対応した支援の必要性があると考えられた。

I. 研究の目的

新しい性対策についての理論が構築されている（本分担研究）中で、「小集団指導」の導入が考案されている。

今回、千葉県の公立中学校で、難易度別コースによる性の健康教育を実施した。この方式に対する生徒の受け止め方や意識を実施前後の変化より評価した。今後の学校保健分野と地域保健分野の連携による難易度別コース導入効果と課題について検討したので報告する。

II. 研究の方法

1. 対象

対象は、千葉県印西市立印西中学校3年生（131名）4クラスであった。

2. 方法

平成16年10月21日、千葉県印西市立印西中学校3年生の性教育「性感染症について」をテーマに、生徒の選択による難易度別コースによる性の健康教育を実施した。生徒のコース選択に事前事後調査を実施した。

なお、今回の保健師による性感染症に関する教育は、印西中学校3年生の性教育5単位のうちの1単位として位置づけられている。

3. 意識調査内容

意識調査内容は、学年別、クラス別、男女別、テーマの選択、学校以外の先生からの講義、性のイメージ等について、事前事後それぞれ調査した。

III. 結果

1. 子どもたちの特徴

表1のとおり、男子61名（46.6%）女子70名（53.4%）で、全体で131名であった。

2. コース（選択したコースと受けたコース）

事前調査では4段階のコースを提示した（表2）。ただし、コース名の提示は学校側からの強い要望により「上級、中級、基本、初級」という表示は避け、内容についてのみを提示した。

表3のとおり中級編の選択が最も多く、次いで基本編、初級編、上級編であった。上級編の選択者は2名であったが今回は学校教諭の参加協力が得られず、「中級編、基本編、初級編」の3コースを保健師3名同時に別会場で実施した。

3. 男女別の選択についての意識

性に関する講義について、半数以上の生徒が男女別に学びたいと感じていることがわかった（表4）。

今回のテーマ選択による講義では、担当する保

健師が3名であったため男女別にわけることができず、事後調査は行っていない。

4. 外部講師に関する意識

事前調査では、「とても思う」「まあまあ思う」合わせて約半数の生徒が「学校の先生以外からの性教育のほうが、気が楽」と感じていたが、事後調査ではそれが約9割に増えていることがわかった(表5)。

事前調査で「あまり思わない」「全く思わない」合わせて63名であったが、事後調査で同様の回答をした生徒は9名と減っていた。事前調査で「全く思わない」と回答していた生徒10名はすべて、事後調査で「とても思う」「まあまあ思う」のどちらかを回答していた。事後調査では「全く思わない」がひとりもいなかった(表6)。

5. クラスの枠をはずした性教育について

事前調査では、「とても思う」「まあまあ思う」合わせても2割弱であったものが、事後調査では9割強になっていた(表7)。

事前に「とても思う」「まあまあ思う」と回答した生徒でも、事後に「あまり思わない」と回答したものが3名いた。事前に「あまり思わない」「全く思わない」を回答したものの103名のうち、事後で「とても満足した」「まあまあ満足した」に変化したものは94名(91.3%)と大変多かった。事後調査で「全く満足しなかった」生徒はいなかった(表8)。

6. 学年の枠をはずした性教育について

学年の枠をはずした性教育については、事前調査では「あまり思わない」「全く思わない」を合わせると86.2%であり、とても多かった。また、「とても思う」が4名いたことがわかった(表9)。

今回は実際に学年の枠をはずした性教育の講義を実施していないため事後調査は行っていない。

7. 難易度別のコース選択についての意識

事前調査でも「とても良い」「まあまあ良い」合わせて82.5%から事後調査では99.5%となり、性に関する講義では難易度別にわけたテーマコースの選択が良いと感じていたことがわかった(表10、11)。

8. 性に関する生徒の意識

1) 性に関する興味について

性に関する興味は、男子は女子に比べ「全く興味がない」がとても多く、女子は男子に比べ「少し興味がある」「あまり興味がない」でやや多かった(表12)。

性に関する興味とコース選択については、上級編、中級編を選択した生徒は「少し興味がある」が最も多く、基本編、初級編を選択した生徒は「全く興味がない」が最も多かった(表13)。

2) 性について、どのように感じますか。(複数回答)

事前事後調査ともに多かったものは「話しぶりがいい」「まだ早い」「恥ずかしい」「当たり前のこと」であった。

性についてのイメージは、表14のとおり生徒それぞれによって多様であることがわかった。

V. 考察

学習指導要領に基づき展開される保健学習は、多くの場合、クラス一律の授業形式によってなされている。今回の調査から、子どもたちの性に対する考えには個人差が大きく、価値観も多様であることが得られた。性の成長発達や個人の希望に応じたコースが選択できる今回の講義形態については、事後に生徒の評価がかなり高くなっていることが明らかになった。この評価の高さを、性感染症に対する脅威(罹患性/重大性)の認識にどのように結びつけていくのかの検討をしていく必要がある。

性感染症対策には、ハイリスク生徒へ性感染症に対する脅威の認識(HBMの1因子)をもたらすことが重要である。学年一律の講義方式ではその成果をもたらすことが難しい。保健師が担当する難易度別コース講義により、保健師への個別相談事例が生じるような事前・事後の工夫を学校側と今後は展開していく必要がある。

VI. まとめ

今回、性感染症対策を目的とした性の健康教育を難易度別コース形式により行った。事前事後調査によって以下のことが明らかとなった。

1. 子どもたちの性に関する意識にばらつきがあり、個人の希望や性・成長発達に応じた小集

団指導が必要であると思われた。

2. 生徒たちは、講義前においては、集団一律ではない講義方式に対して否定的であったが、事後調査ではその多くが肯定的な考えに変化していた。満足する傾向にあった。

VII. 参考文献

1. 松浦賢長：新しい時代の性教育を考える～思春期の性問題に対する現行学校性教育の限界～，日本性教育協会（JASE）研究月報，2004.5
2. 松浦賢長：いのちを教える，児童心理臨時増刊号，2005.1
3. 松浦賢長，他：学校性教育をめぐる連携の理論構築に関する基礎的研究～性教育学を構築していくための試練の第一歩として～，厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書，2003
4. 松浦賢長，他：新しい性教育の展開に関する基礎的研究，厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書，2003

表1 N=131

年齢	実数 (%)
男子	61人 (46.6%)
女子	70人 (53.4%)

表2

コース	内容
上級編	「性感染症について多少の知識があるので、質疑応答を中心に、対話形式で性感染症の予防について」
中級編	「中学校の教科書を基本に、少し詳しく性感染症の実際について学ぼう」
基本編	「中学校の教科書にそって、性感染症を学ぼう」
初級編	「性感染症にかからないための、心と体の健康的な生活習慣を学ぼう」

表3

	選択したコース 人 (%)	受けたコース 人 (%)
上級編	2人 (1.5%)	0人 (0.0%)
中級編	50人 (38.2%)	51人 (39.5%)
基本編	42人 (32.1%)	41人 (31.8%)
初級編	37人 (28.2%)	37人 (28.7%)
合計	131人 (100%)	129人 (100%)

○ 質問項目：性に関することは、どちらかといえば男女別に学びたいですか。(事前のみ調査実施)

表4

	事前 人 (%)
とても思う	12人 (9.2%)
まあまあ思う	64人 (48.9%)
あまり思わない	46人 (35.1%)
全く思わない	9人 (6.9%)
合計	131人 (100%)

○ 質問項目：性に関することは、どちらかといえば学校の先生以外から聞く方が、気が楽です(でした)か。

表5

	事前人 (%)	事後人 (%)
とても思う	12人 (9.2%)	42人 (32.8%)
まあまあ思う	54人 (41.2%)	73人 (57.0%)
あまり思わない	55人 (42.0%)	13人 (10.2%)
全く思わない	10人 (7.6%)	0人 (0.0%)

合計	131人 (100%)	128人 (100%)
----	-------------	-------------

表 6

		事後				合計
		とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	全く思わない	
事前	とても思う	8人(66.7%)	3人(25.0%)	1人(8.3%)	0人(0.0%)	12人(100%)
	まあまあ思う	18人(34.0%)	32人(60.4%)	3人(5.7%)	0人(0.0%)	53人(100%)
	あまり思わない	14人(26.4%)	30人(56.6%)	9人(17.0%)	0人(0.0%)	53人(100%)
	全く思わない	2人(20.0%)	8人(80.0%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)	10人(100%)
合計		42人(32.8%)	73人(57.0%)	13人(10.2%)	0人(0.0%)	128人(100%)

○ 質問項目：クラスの枠をはずして、性・成長発達に応じた講義を少人数で行って欲しいです（クラスの枠をはずして、性・成長発達に応じた講義を受けて満足しました）か。

表 7

	事前 人 (%)	事後 人 (%)
とても思う/とても満足した	3人 (2.3%)	22人 (16.8%)
まあまあ思う/まあまあ満足した	22人 (16.9%)	94人 (71.8%)
あまり思わない/あまり満足しなかった	80人 (61.5%)	12人 (9.2%)
全く思わない/全く満足しなかった	25人 (19.2%)	0人 (0.0%)
合計	130人 (100%)	128人 (100%)

表 8

		事後				合計
		とても満足した	まあまあ満足した	あまり満足しなかった	全く満足しなかった	
事前	とても思う	1人(33.3%)	2人(66.7%)	0人(0%)	0人(0.0%)	3人(100%)
	まあまあ思う	8人(36.4%)	11人(50.0%)	3人(13.6%)	0人(0.0%)	22人(100%)
	あまり思わない	12人(15.4%)	62人(79.5%)	4人(5.1%)	0人(0.0%)	78人(100%)
	全く思わない	1人(4.0%)	62人(79.5%)	5人(20.0%)	0人(0.0%)	25人(100%)
合計		22人(17.2%)	19人(76.0%)	12人(10.2%)	0人(0.0%)	128人(100%)

○ 質問項目：学年の枠をはずして、性・成長発達に応じた講義を少人数で行って欲しいですか。（事前のみ調査実施）

表 9

	事前 人 (%)
とても思う	4人 (3.1%)
まあまあ思う	14人 (10.7%)
あまり思わない	78人 (59.5%)
全く思わない	35人 (26.7%)
合計	131人 (100%)

○ 質問項目：性に関する講義で、難易度別にわけたテーマを選択できることについてどう感じます（どう思いました）か。

表10

	事前 人 (%)	事後 人 (%)
とても良い／とても良かった	15人 (11.5%)	46人 (35.7%)
まあまあ良い／まあまあ良かった	93人 (71.0%)	81人 (62.8%)
あまり良くない／良くなかった	20人 (15.3%)	2人 (1.6%)
全く良くない／全く良くなかった	3人 (2.3%)	0人 (0.0%)
合計	131人 (100%)	129人 (100%)

表11

		事後				合計
		とても良かった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	全く良くなかった	
事前	とても良い	10人 (66.7%)	5人 (33.3%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	15人 (100%)
	まあまあ良い	31人 (33.7%)	60人 (65.2%)	1人 (1.1%)	0人 (0.0%)	92人 (100%)
	あまり良くない	5人 (26.3%)	14人 (73.7%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	19人 (100%)
	全く良くない	0人 (0.0%)	2人 (66.7%)	1人 (33.3%)	0人 (0.0%)	3人 (100%)
合計		22人 (17.2%)	19人 (76.0%)	12人 (10.2%)	0人 (0.0%)	129人 (100%)

○ 質問項目：性について、興味はありますか。

表12 (事前のみ調査)

	男子 人 (%)	女子 人 (%)
興味がある	2人 (3.3%)	2人 (2.9%)
少し興味がある	17人 (28.3%)	26人 (37.1%)
あまり興味がない	24人 (40.0%)	34人 (48.6%)
全く興味がない	17人 (28.3%)	8人 (11.4%)
合計	60人 (100%)	70人 (100%)

表13

		選択コース				合計
		上級編	中級編	基本編	初級編	
性への興味度	興味がある	0人 (0.0%)	1人 (25.0%)	2人 (50.0%)	1人 (25.0%)	4人 (100%)
	少し興味がある	1人 (2.3%)	25人 (58.1%)	10人 (23.3%)	7人 (16.3%)	43人 (100%)
	あまり興味がない	1人 (1.7%)	20人 (34.5%)	19人 (32.8%)	18人 (31.0%)	58人 (100%)
	全く興味がない	0人 (0.0%)	4人 (16.0%)	11人 (44.0%)	10人 (40.0%)	25人 (100%)
合計		2人 (1.5%)	50人 (38.5%)	42人 (32.3%)	36人 (27.7%)	130人 (100%)

表14

N=127

	事前 人 (%)	事後 人 (%)
あまり聞きたくない	20人 (15.7%)	15人 (11.8%)
自分には関係ない	8人 (6.3%)	9人 (7.1%)
恥ずかしい	38人 (29.9%)	33人 (26.0%)
うしろめたい	7人 (5.5%)	7人 (5.5%)
話しづらい	57人 (44.9%)	46人 (36.2%)
まだ早い	43人 (33.9%)	42人 (33.1%)
危険なこと	11人 (8.7%)	28人 (22.0%)
聞きたい	12人 (9.4%)	13人 (10.2%)
当たり前のこと	32人 (25.2%)	39人 (30.7%)
気軽な感じ	4人 (3.1%)	4人 (3.1%)
大人な感じ	30人 (23.6%)	36人 (28.3%)
もっと知りたい	11人 (8.7%)	19人 (15.0%)
誰もが性に興味を持つと思わないで欲しい	10人 (7.9%)	11人 (8.7%)
誰もが性のトラブルに直面すると思わないで欲しい	6人 (4.7%)	3人 (2.4%)
その他	3人 (2.4%)	2人 (1.6%)
合計	292人 (299.9%)	307人 (241.7%)

